



TITLE:

(3) 外国人研究員 (4) 日本人研究員
・ 研究生 (5) 所内談話会(Ⅱ 研究所の
概要)

AUTHOR(S):

CITATION:

(3) 外国人研究員 (4) 日本人研究員・研究生 (5) 所内談話会(Ⅱ 研究所の
概要). 霊長類研究所年報 1999, 29: 67-70

ISSUE DATE:

1999-11-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/165293>

RIGHT:

多くはなかった。大学院コロキアムの存在価値自体を見直す必要があると感じた。(参加者約30名)

(文責：中村克樹)

第2回：1998年12月16日(水) 13:00~17:00

口頭発表：講演者と演題(13:00~14:40)

泉 明宏(認知学習)「ニホンザルにおける音の経時的体制化」

大平耕司(器官調節)「小脳におけるTrkB免疫陽性構造」

竹元博幸(生態機構)「チンパンジーは果実の少ない時に何を食べるのか? -糞分析からの証拠」

水谷俊明(思考言語)「歌声について」

ポスター発表：講演者と演題(15:00~17:00)

伊藤麻里子(器官調節)「Immunohistochemical localization of inhibin in testis of macaque monkey」

海野俊平¹⁾、長坂泰勇²⁾、井上雅仁¹⁾、三上章允¹⁾
「アカゲザルにおけるNeon Color Spreading及びShape-From-Motionによって定義された図形の知覚」

落合知美(岐阜大学大学院連合農学研究科)「飼育下のチンパンジーの環境エンリッチメントー三次元構築物の利用ー」

片岡宏隆(器官調節)「Review and preliminary results of the adult neurogenesis in dentategyrus」

川合伸幸(日本学術振興会・関西学院大学)「高齢チンパンジーの弁別学習」

Yasuhiro KIKUCHI³⁾, Yuzuru HAMADA⁴⁾, Masato NAKATSUKASA³⁾ Hidemi ISHIDA³⁾, Yutaka KUNIMATSU⁴⁾, Toshifumi UDONO⁵⁾

「Bone turnover and geometrical age change in Radius of Chimpanzee and Japanese

macaques using pQCT」

郷 康広(集団遺伝)「原猿類染色体におけるテロメア配列の分布」

佐藤暢哉(広島大学生物圏科学研究科)「側頭葉内側部後部領域のニューロンの視覚刺激に対する応答特性」

杉浦秀樹(認知学習)「ニホンザルはクー・コールの音響的特徴と発声のタイミングを、仲間との距離によって変えている」

鈴木修司(思考言語)「チンパンジーの不確実事象に対する選択」

高橋弘之(社会構造)「金華山のニホンザルにおける冬季の泊まり場での社会関係」

西村 剛(形態進化)「霊長類頭蓋底の比較機能形態学」

早川祥子(生態機構)「ヤクザルの社会構造と繁殖戦略」

平田 聡(思考言語)「チンパンジーにおける道具使用行動の個体学習と社会的学習」

企画：落合牧子、早川祥子、藤田志歩(T・A) 渡邊邦夫(カリキュラム委員)

内容：第2回のコロキウムは特にテーマを設けず、各演者が好きなテーマを選んで発表する形式で行われた。結果として各自の研究の中間報告が多くなったが、院生にとっては研究をまとめる良い機会になったという意見があり、概ね好評であった。しかしその反面で統一したテーマがなく、余り意味がなかったという意見も出ている。カリキュラムの改変が現実の問題になっている中での開催であり、院生が独自に企画する発表の場が今後も維持されることが望ましいという要望があった。

(文責：渡邊邦夫)

(3) 外国人研究員

1) 招へい外国人学者

氏 名：Farajallah, Achmad

受入教官：竹中 修

研究課題：熱帯の動物の多様性に関する研究

招へい期間：10.3.11~10.5.23

11.3.10~11.6.9

1) 行動発現分野

2) 立教大学文学研究科

3) Department of Zoology, Kyoto University

4) Primate Research Institute, Kyoto University

5) Kumamoto Primate Park, Sanwa Kagaku Kenkyuu-sho Co. Ltd.

氏 名 : Hayes, Vanessa Jane
受入教官 : 杉山幸丸
研究課題 : 霊長類、とくにニホンザルの行動・生態学的研究
招へい期間 : 6.3.29~11.3.28

氏 名 : Fagot, Joel
受入教官 : 友永雅己
研究課題 : ヒトと霊長類における視知覚の比較研究
招へい期間 : 10.6.15~10.7.30

氏 名 : Soltis, Joseph Mark
受入教官 : 杉山幸丸
研究課題 : 野生ニホンザルの配偶者選択の行動・遺伝学的研究
招へい期間 : 9.7.1~11.6.30

氏 名 : Setyadji, Rina Herlina
受入教官 : 竹中 修
研究課題 : インドネシアスラウェシマカクの遺伝的分化
招へい期間 : 10.6.10~10.10.15
10.12.9~11.3.6

氏 名 : Suryobroto, Bambang
受入教官 : 竹中 修
研究課題 : インドネシア国ジャワ島カニクイザルの遺伝学研究
招へい期間 : 10.9.9~10.10.4

氏 名 : Malaivijitnond, Suchinda
受入教官 : 竹中 修
研究課題 : 霊長類におけるパラサイロイドホルモン遺伝子の進化
招へい期間 : 10.9.26~10.10.22

氏 名 : Rae, Todd C.
受入教官 : 濱田 積
研究課題 : 真猿類頭骨の比較形態学研究及び教育(ゼミ等)
招へい期間 : 10.12.2~10.12.23

氏 名 : Jonston, David A.
受入教官 : 平井啓久
研究課題 : 住血吸虫類のゲノム解析
招へい期間 : 10.12.9~10.12.22

氏 名 : Thomsen, Ruth Maria
受入教官 : 大澤秀行
研究課題 : 自慰行動の機能に関する研究、電気刺激による射精実験
招へい期間 : 11.1.13~11.2.28

氏 名 : Shahab, Muhammad
受入教官 : 大蔵 聡
研究課題 : 性腺刺激ホルモン分泌の栄養制御に関する神経伝達物質に関する研究
招へい期間 : 11.3.15~12.1.31

(4) 日本人研究員・研究生

1) 日本学術振興会特別研究員

氏 名 : 中村徳子
受入教官 : 松沢哲郎
研修題目 : チンパンジー乳幼児とヒト乳幼児における認知機能の発達の比較
受入期間 : 9.4.1~12.3.31

氏 名 : 杉浦秀樹
受入教官 : 正高信男
研修題目 : ニホンザルにおけるクー・コールの機能の研究
受入期間 : 8.1.1~10.12.31

氏 名 : 鈴木修司
研修題目 : 松沢哲郎
研究課題 : ヒトとチンパンジーの意志決定に関する実験心理学的研究
受入期間 : 10.4.1~11.3.31

氏 名 : 小林洋美
受入教官 : 茂原信生
研修題目 : 霊長類の形態とその機能
受入期間 : 10.4.1~12.3.31

氏 名：保坂和彦
受入教官：加納隆至
研修題目：野生チンパンジーの社会的道具に関する研究
受入期間：10.7.1～13.3.31

氏 名：岡 輝樹
受入教官：竹中 修
研修題目：熱帯林の分断化がテナガザルの社会に及ぼす影響に関する行動生態学的及び遺伝学的研究
受入期間：10.9.1～13.3.31

2) 研修員

氏 名：Gurja Belay
受入教官：竹中 修
研修題目：ゲラダヒヒの分子系統
受入期間：10.4.1～10.6.30

氏 名：岡本暁子
受入教官：杉山幸丸
研修題目：マカカ属のサルの行動学的比較研究
招へい期間：10.4.1～10.9.30

氏 名：嶋田 誠
受入教官：庄武孝義
研修題目：分子標識を用いたアフリカ霊長類の集団間分化の解析
受入期間：10.10.1～10.10.19
11.1.1～11.3.31

氏 名：橋本千絵
受入教官：加納隆至
研修題目：チンパンジーとボノボの社会・生態学的比較研究
受入期間：11.1.1～11.3.31

3) 受託研究員

氏 名：山地健人
受入教官：中村 伸
研修題目：霊長類のアレルギー反応におけるIgE産生機序の調節
受入期間：10.4.1～11.3.31

4) 研究生

氏 名：片岡宏隆
受入教官：林 基治
研究項目：霊長類の発達に伴うソマトスタンチンレセプター遺伝子の量と変化
受入期間：10.4.1～11.3.31

氏 名：許 植壬
受入教官：中村 伸
研究項目：霊長類の止血免疫系に関する分子細胞生物学的研究
受入期間：10.6.1～11.3.31

氏 名：Nielsen, Matthew L.
受入教官：小嶋祥三
研究項目：注意の機能脳画像的研究
受入期間：10.7.1～11.1.31

氏 名：Anukulthanakorn, Kanya
受入教官：竹中 修
研究項目：霊長類分子進化
受入期間：10.11.1～11.1.31

5) 特別研究学生

氏 名：小山哲男
受入教官：三上章允
研究題目：中枢神経系における痛みの認知及び情動、逃避行動への影響の解明
研究期間：10.4.1～11.3.3

(5) 所内談話会

第1回：1998年4月28日(火)

「Tool use and sexual behavior of tufted capuchins

—フサオマキザルの道具使用と性行動—」

Dr. Elisabetta Visalberghi
Istituto di Psicologia, C.N.R., Italy

第2回：1998年5月25日(月)

「Miocene Mammal Fossils in Northern Thailand」

Dr. Benjavun Ratanasthien
Dept. Geol. Sci., Faculty of Sci.,
Chiang Mai Univ., Thailand

第3回：1998年9月4日（金）

「霊長研設立の経緯と将来への展望」

杉山幸丸（生態機構分野）

第4回：1998年10月19日（月）

「Good Natured: Animal origins of human morality」

－思いやり：動物にみるヒトの道德性の起源－

Dr. Frans B. M. de Waal

Yerkes Regional Primate Research
Center, Emory Univ. USA

第5回：1998年12月14日（月）

「Re-assessment of Lemurine Systematics」

－キツネザル亜科の分類の再評価－

Dr. Judith Caton

Canberra Inst. of Technology,
Australia

「Last Common Ancestors, Homoplasy,
Homology, and Ape Evolution」

－最後の共通祖先、相似、相同、類人猿の進化－

Dr. Greg Laden

Univ. of Minnesota, USA

第6回：1999年1月22日（金）

「殺人の行動生態学：日本の戦後データの分析」

長谷川寿一（東京大学総合文化研究科）

第7回：1999年1月29日（金）

「動物の認知に学ぶ」

脇田真清（行動発現分野）

（所内談話会係：田中正之・本郷一美）